

2016年3月号

3月15日(火)

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊

温根内通信

No. 234



春の気配…

今年の冬は雪が少なく、湿原で過ごすエゾシカたちにとっては過ごしやすい冬になったようです。3月に入ると急に暖かくなり、もともと少ない雪がどんどん解けて、地面がちらほら目につくようになってきました。鶴居軌道跡の湧水地沿いでは早くもフキノトウが姿を現し、歩くスキーやスノーシューを楽しむ季節も終わりを迎えました。いきものたちが待ち望んだ春が、ようやくやってきそうな気配です。

～温根内ビジターセンター 木道周辺の自然情報～



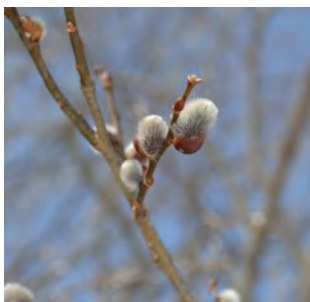
～温根内探勝木道周辺の自然～



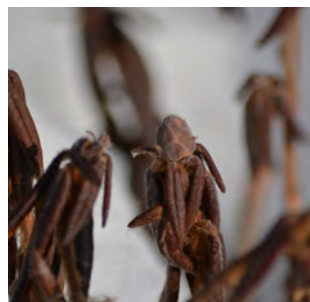
【フキノトウ(アキタブキ)】
キク科 秋田落
鶴居軌道跡で雪が解けると、いち早く顔を出しました。茶色の地面に黄緑色のフキノトウが顔を出すと、春の訪れを実感します。



【ケヤマハンノキ】
カバノキ科 毛山榛
日当たりの良いところではケヤマハンノキの雄花が膨らみ始めました。3月下旬にかけて目立たない花を咲かせ、花粉を飛ばします。



【バッコヤナギ】
ヤナギ科 跋扈柳
冬芽の芽鱗が落ちるとふわふわの花序が現れ、「猫柳」状態になります。4月中旬には目立たない花を咲かせます。雌雄異株



【カラフトイソツツジ】
ツツジ科 樺太磯躑躅
冬の間は葉をたたみ、花芽も芽鱗に包まれて、厳しい冬をしのぎます。5月下旬から白い花を咲かせ始め、ミズゴケ湿原を彩ります。



【アメリカミンク】
イタチ科 特定外来生物
雪が解け、開水面が現れると、ミンクが入り出す姿を頻繁に見かけるようになります。魚や水生昆虫など捕まえて食べているようです。



【エゾシカの食痕】
雪に覆われたミズゴケ湿原を掘り返している跡があちこちにありました。エゾシカが雪の下のコロムイツツジ(絶滅危惧ⅠB類)やヤチヤナギを食べた跡です。

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

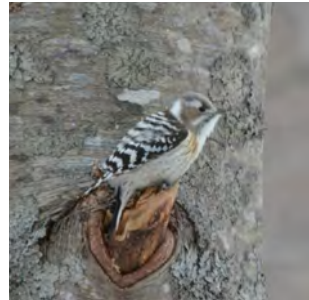
○表紙の写真 上：暴風雪後のミズゴケ湿原 中右：湿原内のエゾシカ 中左：フキノトウ 下：エゾユキウサギの足跡

～温根内ビジターセンター周辺の鳥～

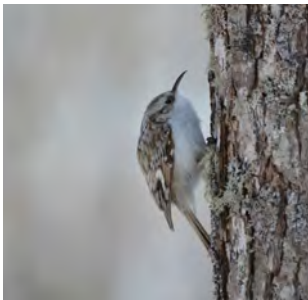
温根内周辺はカラ類がさえずり、キツツキのドラミングが聞こえ始め、少しずつ春らしくにぎやかになってきました。冬鳥や旅鳥たちも、そろそろ大陸の繁殖地へ向けて長い旅に出る頃です。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸し出しています。お気軽にご利用ください。



【ツグミ】 冬鳥
ヒタキ科 鶇
鶴居軌道跡の湧水地で水生昆虫などを探して食べている姿が見られます。まもなく大陸の繁殖地への長い渡りが始まります。



【コゲラ】 留鳥
キツツキ科 小啄木鳥
ビジターセンター周辺の森の中で、カラ類の群れと一緒に行動する姿が見られます。「ギー」という鳴き声が特徴の小さなキツツキです。



【キバシリ】 留鳥
キバシリ科 木走
細長く下向きに湾曲している嘴が特徴で、木の色に同化して見つけるのが難しい鳥です。「シリリ…」というやさしい声が聞こえたら探してみましょう。



【ハイトカ】 留鳥
タカ科 灰鷹
ハトほどの大きさで、温根内では時々見られます。カラ類などがにぎやかな森も、ハイトカがやってくると一瞬で静まり返ります。

○温根内木道で観察された鳥（2月15日～3月14日）※和名は日本鳥類目録第7版の順

■オオハクチョウ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ハイトカ■ノスリ■コゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■カケス■ハシボソガラス■ハシブトガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■ウソ



2月中旬から鶴居軌道跡や木道周辺でタンチョウのつがいが増え、姿を現すようになりました。そろそろ繁殖地の品定めをしているようです。温根内周辺を縄張りしているタンチョウのつがいはここ数年繁殖に失敗しています。2013年は小さなヒナを確認しましたが、数日後に姿を消してしまいました。今年こそ元気なヒナを連れている姿を見たいものです。木道を歩いている際に、このつがいを見つけたら、遠くから暖かい目で見守ってあげましょう。

☆自然ふれあい行事「湿原の裏山でスノーシューハイク」が開催されました☆



3月6日（日）、スノーシューを使ってビジターセンター裏の丘に登る観察会を行いました。

最初にビジターセンター裏の森でスノーシューの練習をしてから急な斜面を登り、途中で動物の足跡や食痕、湿原と丘の上での植物の違いなどを観察しながら、積雪時にしか行けない温根内を一望できる展望地を目指しました。帰りの斜面では、自然死した立派なオスのエゾシカが雪に埋まっているのを見つけ、その周りに他の生き物の痕跡がたくさんあることから、自然の循環といきもの同士のつながりを実感しました。参加者数：10名 講師：本藤泰朗

☆☆☆☆自然ふれあい行事 平成 28 年度の予定☆☆☆☆

4 月

○早春の湿原ハイク 定員 15 名
10 日(日) 10:00～12:00
まだ何もみえないように見える湿原で、見過ごしてしまいがちな目立たない春を探しましょう。



8 月

○ザリガニウォッチング～ウチダザリガニ編～
14 日(日) 10:00～12:00 定員: 15 名
特定外生物のザリガニを楽しく釣りながら、外来種の脅威と湿原への影響を学びましょう。



5 月

○春の湿原ハイク 定員 15 名
8 日(日) 10:00～12:00
ようやく咲き始めた春の花を観察し、釧路湿原の遅い春を観察してみましょう。



9 月

○秋の湿原花ハイク 定員 15 名
11 日(日) 10:00～12:00
今年最後の花々と、様々な果実を観察し、花のシーズンを締めくくしましょう。



○早朝バードウォッチング 定員 15 名
22 日(日) 8:00～10:00
鳥の活動が活発な早朝、釧路湿原とその周辺に集まり始めた夏鳥を探します。

10 月

○ザリガニウォッチング2～ニホンザリガニ編～
16 日(日) 10:00～12:00 定員 15 名
釧路湿原に棲む絶滅危惧種ニホンザリガニの生態を学び、生息環境を観察します。



6 月

○春の湿原花ハイク 定員 15 名
5 日(日) 10:00～12:00
花の季節到来! 湿原を演出する可憐な白い花や、目立たないスゲの花などを観察します。



11 月

○晩秋の湿原ハイク 定員 15 名
6 日(日) 10:00～12:00
花が終わり、何もみえないように見える湿原で、様々な姿の個性的な植物を観察します。



7 月

○初夏の湿原花ハイク 定員 15 名
3 日(日) 10:00～12:00
たくさん花を観察し、釧路湿原の最も華やかな季節を堪能しましょう。



12 月

○初冬の湿原ハイク 定員 10 名
4 日(日) 10:00～12:00 定員 10 名
本格的な冬を前に、植物がどのように冬を越える準備をしているのか観察します。



○ホタルウィーク 定員: 20 名
29 日(金)～31 日(日) 19:30～21:00
釧路湿原に棲むヘイケボタル。そのふしぎな生態を学んでから夜の湿原へと出かけます。

1 月

○厳冬の湿原ハイク 定員 10 名
15 日(日) 10:00～12:00
雪上に残る動物の痕跡から、冬の湿原にはどんな動物が暮らしているのか考えます。



8 月

○夏の湿原花ハイク 定員 15 名
7 日(日) 10:00～12:00
盛夏の湿原で、ふしぎな植物の仕組みをじっくりと観察します。熱中症に注意。



2 月

○歩くスキーで湿原ハイク 定員 10 名
12 日(日) 10:00～12:00
歩くスキーを使って、冬の湿原とその周辺を楽しめます。初心者でも OK。



～開館時間が変わります～

4 月 1 日より開館時間が変更になります。夏季(4/1～10/31)の開館時間は午前 10 時から午後 5 時までです。夏時間とはいえ、まだまだ寒い日が続きます。木道を歩く際には防寒対策を十分に行いましょう。



月刊 温根内通信 3 月号 No. 234

発行: 釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-0036 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

ホームページ: <http://city.hokkai.or.jp/~kk946/>

fFacebook: 温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間: 10:00～16:00(4 月～10 月は 17:00 まで)

休館日: 毎週火曜日(12/29～1/3 は休館) 入館無料